

民間事業者からの提案について（防災関係）危機管理局まとめ

	提案	既存	備考・コメント
一般認識率	×	◎	一般的な住民の使用頻度等（全携帯電話既存導入率約83%）
周知力	△	○	提案：改めてDLしなければならず一步劣る 既存：既にDL済の方が多くともだち登録のみで済む。
プッシュ通知	○	◎	提案と既存では、既存の認知率が高いと想定
イニシャルコスト	△	◎	提案：サーバの構築、設定等あり無線まではいかないにしても他システムの連携も含め導入費が高い。 既存：設定費用だけなため、大変安価。
ランニングコスト	△	○	提案：サーバの保守費用がかかる。住民提案としてなら多くの課での活用方法が見いだせ、ランニングコストが割安になる可能性もある。 既存：庁舎全体で使用しており大変安価。
運用性	○	◎	提案：自治会からの発信も可能であり既存にはない機能。「自治会提案」のような側面は有用性がある。 既存：アンケート機能等の多機能性、メニュー画面や発信方法のカスタマイズ性、導入率の高さがある。
地元の自由度	◎	×	提案：地元グループを作成しておき、DLした人がそのグループ設定をされれば、自治会長等ID・PASSを知っている者がそのグループ宛てに情報発信をすることができる。
将来性	-	○	提案：業者の独自のものであり不明。導入団体も2024/7時点8自治体に留まる。 既存：日本中の導入率から多様性、カスタマイズ性等将来性が高いといえる。
操作性	○	◎	提案：直感的に使用できる画面となっている。 既存：認識率からの操作性では優位。
導入ハードル	○	○	どちらも住民目線では、初期設定はあるものの、スマホで完結し、どちらも導入のハードルは低いといえる。市目線でも、導入時の設定のみで、あとは広報によるため、防災行政無線導入ほど地元説明や通信局への申請、導入費用的に導入のハードルが低いといえる。

	①IP型無線 (提案)	②既存	備考・コメント
一般認識率	○	○	見た目は一緒なため。
周知力	○	○	無線機能は変わらないため。
イニシャルコスト	○	△	①通信局への届出が不要なため。
ランニングコスト	△	△	同等に保守メンテナンス費用が必要。また、①は通信費、②は通信局への負担金が必要。
修繕費	○	○	通信方法の違いのため、無線そのものの修繕は同等。
電波到達度	△	○	広大な市街地や、基地局から見て山を越えた位置に民家のあるような市であれば①に優位性がある。本市は、基地局からの電波の届く位置に民家があるため無線放送域は網羅できている。山岳救助等にて①は電波が届かないことを考えると移動系無線にて対応できる②が優位。
震災時の機能性	○	◎	①は携帯キャリアの無線局に依存するが②は市の無線のため独立して運用可能
将来性	△	○	①携帯キャリアによる電波であるため企業に依存する。②は通信局に申請し市専用の電波帯を使用しているため基本的に永遠に運用できる。
拡張性	○	○	①ハンディ型等様々なタイプがありグループ設定をすることで使用幅が広がる。また、そういう使用場面は想定していないが、無線局でなく形態キャリアの電波なため市外県外でも使用可能。②移動系の車載型等様々なタイプがあるため、無線の届く範囲であればどの場面でも使用可能。